

Ⅱ 横断的研究の概要

1. 研究の全体構想

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築は国の重要な政策課題であり、各地域や教育現場における取組を着実に進めることが求められている。その取組に寄与する研究の必要性から、「我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究」をテーマとした5年間（平成28年度～令和2年度）の研究を推進してきた。

平成28・29年度は、国内における教育委員会や園・学校のインクルーシブ教育システムの現状と課題に関する調査と海外（アメリカ、イギリス、イタリア）におけるインクルーシブ教育システムの動向と評価指標に関する実地調査を行い、インクルーシブ教育システム構築の「評価指標（試案）」を作成した。

平成30年度の研究では、インクルーシブ教育システムの構築に関しては、共通した目指すべき姿があるのではなく、各地域や園・学校の実情に応じて構築を進めるべきものであることを確認した。このため、平成29年度に作成した「評価指標（試案）」に示した各項目は、園・学校がインクルーシブ教育システムの構築の現状や課題を把握して、次の取組を見出すための手掛かりを得るためのものと捉え直した。この趣旨を反映するために、「評価指標（試案）」について、インクルーシブ教育システムを推進し、主体的取組を支援するためのツールとして捉え直し、「インクル COMPASS」（「Components for promoting inclusive education system and assisting proactive practices」の頭文字）に改称した。

平成30年度・令和元年度の2年間は、研究協力機関（教育委員会、園、小・中学校、高等学校、特別支援学校）の協力を得て、園・学校用「インクル COMPASS（試案）」を園・学校の実情に即した内容に改善を図り、実際に園・学校に使用してもらい、その活用事例を収集して、実情を踏まえた園・学校用「インクル COMPASS」とその活用例を提案した。あわせて、平成28・29年度に収集した海外の情報を参考にしながら、海外においてインクルーシブ教育システムの取組や推進状況を把握する指標などが、どのように使用されているのかについての情報を収集した。

そして、最終年度となる令和2年度においては、園・学校のインクルーシブ教育システムの構築・推進を支え、地域における理解啓発を図っていくためのツールとして教育委員会用「インクル COMPASS」を作成し、活用方法を提案した。さらに、園・学校、地域がインクルーシブ教育システム構築のための主体的取組を見出すための要件についての考察、研究協力機関の園・学校での「インクル COMPASS」の使用とそれに基づくインクルーシブ教育システムの推進に向けた主体的取組についてまとめた事例集の刊行、園・学校用「インクル COMPASS」、教育委員会用「インクル COMPASS」の活用を図るためのガイドを作成し、公表した。

2. 研究目的及び意義

各地域や各園・学校が、さらには、教職員一人ひとりがインクルーシブ教育システムについて共通理解することなしには、インクルーシブ教育システムの構築は成し得ないであろう。したがって、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、どのような取組が必要であるのかを共通理解し、どのような方向性で取組を進めていけば良いのかがわかる、つまり、見通しをもってインクルーシブ教育システムを構築・推進していくことのできる指標が必要である。「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」では、学校が取り組むべき課題の今後の進め方について、「施策を短期（「障害者の権利に関する条約」批准まで）と中長期（同条約批准後の10年間程度）に整理した上で、段階的に実施していく必要がある」としている。このことから長期的な視点を持ち、持続的に取組を進めるためには、現状把握のもと目指すべき今後の方向性を見出すための指針が必要である。

さらに、「国全体としてインクルーシブ教育システムが構築されていくためには、そのビジョンを具現化していくための到達目標の設定や進捗管理など、システムに関する段階的な指標が必要になる」（国立特別支援教育総合研究所，2016）、といった研究成果と提言を踏まえ、本研究は、インクルーシブ教育システム構築に向けた取組の方向性が明確になる指針の作成を通して、我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築・推進に寄与することを目的とした。

3. 5年間の概略

5年間の研究の流れ



図Ⅱ-1 5年間の研究の概略図